

狂おしいほどに官能的。バルトークが描いた20世紀オペラの最高峰。

青ひげ公の城

そして、彼女の企みは扉の先へ歩み出した。

指揮 シルヴァン・カンブルラン

Conductor: SYLVAIN CAMBRELING

ユディット イリス・フェルミリオン 青ひげ公 バリント・ザボ
Judith: IRIS VERMILLION Bluebeard: BÁLINT SZABÓ

メシアン 忘れられた捧げもの

MESSIAEN: Les offrandes oubliées

ドビュッシー「聖セバスティアンの殉教」交響的断章

DEBUSSY: Le martyre de Saint Sébastien, fragments symphoniques

バルトーク 歌劇「青ひげ公の城」作品11(演奏会形式/字幕付き)

BARTÓK: The Bluebeard's Castle, op. 11 (concert style)

読売日本交響楽団 第567回 定期演奏会

2017 4.15(土)18時開演 東京芸術劇場コンサートホール

S ¥7,500 A ¥6,500 B ¥5,500 C ~~SOLD OUT~~

SUBSCRIPTION CONCERT No. 567 Sat. 15th Apr. 2017 18:00 / Tokyo Metropolitan Theatre

読響チケットセンター 0570-00-4390(10時-18時・年中無休)

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

協力: アフラック 事業提携: 東京芸術劇場

読 響
Yomiuri Nippon
Symphony
55th
Orchestra
55th Anniversary

「劇場人」カンブルランが振る《青ひげ》

明治学院大学教授・音楽学者
岡部 真一郎

《青ひげ公の城》は、バルトーク唯一のオペラである。いわゆる「青ひげ伝説」に基づきながらも、より普遍的なテーマを扱うバラージュの台本は、古い言い伝えとしつつも、舞台の設定を取って置かし、プロットの展開より、むしろ人間の内面、その本質にスポットを当てんとする。斯くなる姿勢は、ドビュッシーの《ペレアスとメリザンド》を強く想起させ、またその原作たるメーテルリンクにも繋がるものだ。

ローゼンシュトック指揮による1957年の上演以来、われわれは、折に触れ、この傑作に接して来た。

シェーンベルクの《期待》と組み合わせられたモントリオールの舞台、文字通り時空間を自在に操るルパーージュ演出は強く印象に残っている。あるいは、パリ・オペラ座の来日公演、ラ・フラ・デルス・ハウスによる舞台も思い出されようか。モルティエ時代の象徴とも言うべき明確なコンセプトに基づき、バルトークと並ぶ「もう一つの青ひげ」として、この時、併せて演目に選ばれたデュカスの《アリアーヌと青ひげ》のタクトをとっていたのは、他ならぬカンブルランだった。

そのカンブルランが、いよいよ、読響でバルトークを振る。

7つの開かずの扉を巡る1時間ほどのオペラは、演劇上は静的とも見える一方、バルトークの認めた音符は、装置や演技などを遙かに越えるまでの力を持つ。聴き手に届く音楽こそが言わば主役だ。内外を問わず、演奏会上演が頻繁に行われている所以も、ここにある。

しかし、だからこそ、今一度、目を向けたいのが、些か逆説的ではあるうとも、カンブルランの「劇場人」としての資質だ。マエストロの豊かな経験に裏打ちされたセンスこそが、雄弁なスコアから一層の輝きを齎すと期待されるからだ。

メシアン最初期の佳品、そしてドビュッシー、《青ひげ》とほぼ同時期に書かれた劇音楽に基づく交響的断章を組み合わせたプログラムは、充実した一夜を約束すると同時に、大プロジェクト、《アッジジの聖フランチェスコ》全曲日本初演への序章としても、意義深いものとなるだろう。

Conductor SYLVAIN CAMBRELING

常任指揮者 シルヴァン・カンブルラン

色彩豊かな音楽作りで、読響を世界のトップレベルへと導く名匠。1948年フランス・アミアン生まれ。2010年から読響常任指揮者を務め、古典から現代まで幅広いレパートリーを演奏し、高い評価を得ている。現在、シュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督を務めるほか、クラクフ・フォーラム・ウィーンの首席客演指揮者も兼任している。ベルギー王立モネ歌劇場の音楽監督、フランクフルト歌劇場の音楽総監督、バーデン・バーデン・フライブルクSWR響の首席指揮者を歴任。ベルリン・フィルなど世界の一流楽団に客演している。今年11月には、読響とメシアンの超大作オペラ「アッジジの聖フランチェスコ」(演奏会形式)を全曲日本初演する。



ユディット イリス・フェルミリオン

ドラマティックな歌唱で欧州の聴衆を魅了するドイツのメゾ・ソプラノ。アーノック・ル指揮の「フィガロの結婚」ケルビーノ役で国際的に注目を浴びて以来、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン国立歌劇場など一流歌劇場に招かれ、ショルティ、アバド、バレンボイム、マズア、ティレマンら巨匠と共演している。近年は、「サロメ」のヘロディアス、「エレクトラ」のクリテムネストラ、「イエヌーファ」のコステルニチカなどで高い評価を受け、2016年ザルツブルク音楽祭ではハーディング指揮ウィーン・フィルとエトヴェシュ作曲の新作初演で成功を収めた。



青ひげ公 バリント・サボ

青ひげ公役を得意とし、世界各地で活躍するハンガリーの名バス歌手。ルーマニアのクルジュ・ナポカのハンガリー歌劇場、ハンブルク国立歌劇場、フランクフルト歌劇場の専属歌手を務めたほか、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、英国ロイヤル・オペラ、バイエルン国立歌劇場などに招かれ、「ドン・カルロ」のフィリッポ2世、「魔笛」のザラストロ、「ドン・ジョヴァンニ」のタイトルロールなどを歌う。青ひげ公役は、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ハンガリー国立歌劇場などで数多く歌っており、昨年11月のハンブルク国立歌劇場でも絶賛を博した。

読響日本交響楽団 第567回 定期演奏会

2017年4月15日(土) 18時開演

東京芸術劇場コンサートホール

S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C **SOLD OUT**

東京都豊島区西池袋1-8-1 Tel. 03-5391-2111

●JR・西武池袋線・東武東上線・東京メトロ「池袋」駅西口より徒歩2分(※駅地下通路2b出口と直結しています)

読響カード 東京芸術劇場には一時託児施設があります。 ■学生券: 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。 ■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択してチケットをご購入いただけます(一部、携帯電話、スマートフォンなどを除く)。*郵送でチケットを受け取る場合、送料は無料です。

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

読響ホームページ <http://yomikyo.or.jp/>